数学

名古屋大学 文学部、教育学部、法学部、経済学部、

情報学部（人間・社会情報学科）（前期） 1 / 1

<全体分析>

試験時間

90分

解答問題数

3題

解答形式

全問論述式

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化）

出題の特徴や昨年との変更点

全問小設問によって構成されている。

2と**3**は理科系と共通問題であった。

その他トピックス

5年連続で数列、ベクトルからの出題がなかった。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
1	積分法	数学II	放物線，y軸に平行な2直線，およびx軸が囲む領域の面積を誘導に従って求める。	標準
2	整数	数学A	2次の不定方程式の整数解。	標準
3	確率	数学A	整列したコインを裏返す操作に関する確率。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

今年の文科系の問題は、昨年に比べてやや難化した。計算量も増加し、思考力を問う問題も増えている。確実に得点するには、典型的な問題を必ず解けるようにした上で、煩雑な計算にも耐え得る計算力を養っておくことが大切である。参考書などで問題の解き方をマスターした上で、過去の入試問題や入試攻略問題集（河合出版）を十分に研究し、問題文を正しく読み取り状況を的確に整理する力をつけておこう。

近年、文科系では数列やベクトルからの出題がない年が続いているが、油断せずに対策をしておくべきであろう。